

# 日本篆刻家協会会報

第14号 平成27年3月31日発行  
発行：日本篆刻家協会  
563-0032 池田市石橋2-2-10-203  
TEL 072-760-3852 FAX072-760-3853  
E-mail: info@n-tenkoku.jp  
http://www.n-tenkoku.jp

## 平成二十七年総会開催

平成二十七年総会が一月十二日、ホテル大阪ベイタワーで開催され、全国各地から役員、会員計二七人が参加した。総会に先立って企画委員会、第二回理事会が開かれ、今後の協会の運営について協議された。

### 年頭に想うこと

理事長 尾崎蒼石

本年の日本篆刻展も三十一回を数え、成熟の時代に入った感があります。日本篆刻展の前身である篆社全国展の第一回展では全国からの公募作品三七五点及び会員作品が三三九点集まりました。日本での公募篆刻展はいままで無かったことで、篆刻界に衝撃を与えたことは、今でも鮮明に覚えています。ただ、近年は人口の減少、少子高齢化による多方面に影響が出てきており、この現象は簡単に止めることはむづかしいでしょう。

昨年の第三十回展では、以上のことに鑑み、公募として小・中学生篆刻展を計画したところ、実に六〇〇点近い作品の応募があったことは、将来に向けての力強い希望をいただいた気がします。そして、近い将来に明るさを感じたのは私一人ではないと考えます。本年の第三十一回展は、次に向かつての第一歩です。どうぞ会員の皆さん力を合わせてこの協会を盛り上げていただくと共に、皆様のご健康をお祈りする次第です。



今年度の運営について基本的事項を協議する理事会



尾崎理事長の議長のもと肅々と進められた総会

## 平成二十七年年度役員

### 【常任顧問】

山下方亭

### 【理事長】

尾崎蒼石

### 【副理事長】

井谷五雲

### 【顧問】

市川尚儼

### 【代表理事】

喜多芳邑

### 【名誉理事】

久米義山

### 【常務理事】

伊佐治祥雲

### 【参事】

師子堂房翠

### 【理事】

畔原裕美

### 【参与】

会田慶子

### 【評議員】

青木嘉代子

### 【参事】

鈴木紀山

### 【理事】

寺田清雲

### 【参与】

山本恵子

### 【参事】

水野和香

### 【理事】

村田祥風

### 【参与】

吉田雅風

### 【参事】

植野無人

加藤静雲 金森喜涉 川西卯水 楠土翠

剣田白峰 小谷知洲 酒井好雨 佐藤正明

清水抱石 白尾芳雲 杉本素月 関野羊越

高野弘深 瀧上紀翠 多田学友 田中九成

田中瑞峰 丹下青風 中田東光 西田茜秋

西山進 橋本碧峰 服部九姚 林旦山

樋口桃園 藤田孝風 松阪聖岳 松田泰軒

松本弘碩 水上健治 水巻游光 森豊苑

森川恵扇 森原晋作 山崎一雄 吉田宗里

青木嘉代子 浅野江涯 浅野春泉 浅野祥雲

浅野和泉 浅良朱華 池田蘆翠 井後雅堂

石亀明峯 石留之然 石原雲木 伊藤錦汀

伊藤淨盦 伊藤梅香 今村董圃 上松莊夢

内田紅楓 内田真弓 梅原玉翠 大村雪陵

岡上汀華 岡田桂舟 小川隼石 小國妙子

櫻野麗琴 片畑仁美 加藤正順 川崎白水

北田成磊 北野河聲 橘高香流 木本研塵

串田一逕 國方得仙 久保南芳 小森香苑

近藤胡蝶 嵯峨洛山 坂上香艸 阪口香雪

静一華 渋谷春好 嶋田杏園 正和杏葉

鈴木紀山 鷹取千豊 武友卓知字 多田稔里

巽聖石 田中泉仙 千歳天空 寺田和仁

寺田清雲 寺本翠葉 土井純司 得永春水

戸出九廬 中島大夢 永野友美字 中林千影

仲森蓬園 名倉克彦 西口青咲 庭田露舟

野中紫光 長谷川拓石 島穆風 畑間青露

破名城泰久 花村秀嶽 原田恵苑 坂正歩

坂東香璋 廣田佳苑 藤田富美恵 藤縄尚子

藤村香代子 古瀬章石 堀口秀雄 本郷紫香

馬景泉 牧野象山 増田繁治 松井翠香

松田静石 松田美津子 松本清苑 丸山沙舟

水野和香 南敏子 宮越素翠 宮野宗雄

村田祥風 山口敦子 山田青溪 山室雅美

山本恵子 山本寿法 山谷加津子 横井青蓮

吉田雅風 渡部芳月 渡辺北舟



午後二時三十分からの総会は、尾崎理事長が議長を務め議事が進められた。平成二十六度事業報告、同決算報告、同会計監査報告、平成二十七年度事業計画案、同予算案が提案されいづれも原案通り承認決定された。また、別表のとおり役員が承認された。

総会に先立ち午後一時から開催された理事会では、総会準備とともに第



お祝いの花束を贈られ挨拶する  
日展特選受賞者井谷五雲氏

舞台上で紹介される  
改組新第一回日展の入選者

全国からの会員が参集し交流を深めた  
新年懇親会で挨拶する尾崎理事長



九月課題 「十謀九成」

役員(山下方亭選)



白水



胡蝶



純司



明峯



恵子

常任委員(出田塘霞選)



素翠



碧泉



墨石



秀風



鏡水

委員(黃平齋選)



竹峰



戲石



秋露



博則



群蛙

會員(伊藤雅夫選)



喜雨



輝雄



穆風



極浦



弘泰

一般(草田翠苑選)



幽篁



篤



碧翠



顔了



和子

- 石留之然
- 川崎白水
- 近藤樹蝶
- 土井純司
- 石角明峯
- 山本恵子
- 竹内立女
- 古野燕安
- 長谷拓石
- 木村容庸
- 水上健治
- 古瀬章石
- 津田秀風
- 津田秀風
- 中壽江
- 永井恵子
- 永井恵子

- 【常任委員】
- 福浦錦風
- 藤本青桐
- 宮越素翠
- 松野碧泉
- 松永平峰
- 長谷山翠
- 岡上汀華
- 伊藤博則
- 楊八哥
- 田中壽江
- 山本恵子
- 永野草翠
- 山村千
- 川久保明

- 【委員】
- 萬谷若風
- 中山翔石
- 岡田芳道
- 大塚秋露
- 伊藤博則
- 藤田和霞
- 永田俊石
- 向田桂峰
- 鈴木桂峰

- 【全会員】
- 川端景司
- 井畑喜雨
- 向仲輝雄
- 馬場穆風
- 馬場弘泰
- 武田之信
- 長沼梅風
- 中井榮子
- 兼子悦治
- 吉岡龍生
- 三宅漢月
- 小林住好
- 内藤正男
- 長沼梅風

- 【一般】
- 後藤英子
- 芦野幸弘
- 堤瑞恵
- 板屋玉芝
- 木村忠男
- 牛島鈴輪
- 鈴木哲男
- 根本哲男

十月課題 「千變萬軫」

役員(尾崎蒼石選)



静雲



之然



純司



正步



米子人

常任委員(榎原晴夫選)



平峰



見聲



素翠



瑞邦



龍神

委員(武井岳峰選)



翔石



蘇西



春冷



雲堂



忠義

會員(草田翠苑選)



梅風



住好



綠泉



信夫



雅宣

一般(南岳泉露選)



幽篁



顔了



勝山



幸弘



晶石

- 岸村衷風
- 源部芳月
- 石留之然
- 土井純司
- 坂正歩
- 邊藤米子
- 武友早知子
- 山本恵子
- 津田秀風
- 渡部芳月
- 浅良夫華
- 松田泰軒
- 川崎白水
- 大橋彦高
- 村田祥風

- 【常任委員】
- 津田秀風
- 川久保明
- 佐藤翠龍
- 宮越素翠
- 宮本瑞邦
- 奥島紳丘
- 垣内誠峯
- 寄田龍神
- 細川恵苑
- 小谷知洲

- 【委員】
- 森井昌雲
- 福谷華紅
- 中島敬次
- 宮本瑞邦
- 奥島春冷
- 吉崎雲堂
- 藤本忠義
- 平松清嗣
- 田原群蛙

- 【全会員】
- 吉岡龍生
- 中龍探
- 小松住好
- 鷹野綠泉
- 山杉博子
- 和田扇舟
- 松村信夫
- 松浦雅宣
- 眞森陽子
- 藤田勉

- 【一般】
- 坂屋玉芝
- 國江碧翠
- 鈴木美智子
- 大野勝山
- 坂中泓
- 芦野幸弘
- 森下正義
- 三宅洋子
- 木村忠男
- 牛島鈴輪

役員(井谷五雲選)



智子



祥雲



祥庵



早知子



桂舟

常任委員(堤白遊選)



汀華



誠峯



芳泉



和香



瑞邦

委員(古瀧幽蛙選)



葭舟



静二



華紅



雪峰



功勝

會員(中村葉舟選)



陽子



景司



極浦



榮子



誠

一般(長谷川帰海選)



勝山



浩二



瑞恵



英子



玉芝

役員(眞鍋井蛙選)



之然



青露



立女



明峯



穆風

常任委員(松本雅至選)



平峰



汀華



井泉



墨石



龍神

委員(石原豊玉選)



育治



春冷



戲石



啓



容史子

會員(梶川久美子選)



秋鹿



陽子



沖玄



正男



浩三

一般(伊佐治祥雲選)



瑞恵



美智子



碧翠



和子



勝山

常任委員(横岡匠泉選)



横岡匠泉



坂本哲男



板屋玉芝

委員(堤白遊選)



堤白遊



坂本哲男



坂本哲男

會員(梶川久美子選)



梶川久美子



坂本哲男



坂本哲男

一般(伊佐治祥雲選)



伊佐治祥雲



坂本哲男



坂本哲男

常任委員(松本雅至選)



松本雅至

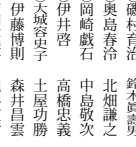


坂本哲男

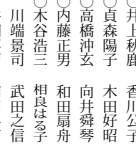


坂本哲男

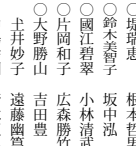
委員(石原豊玉選)



石原豊玉



坂本哲男



坂本哲男

一月課題

「博学」

役員(平田蘭石選)



章石



早知子



惠子



拓石



和香

常任委員(山田塘霞選)



瑞邦



景雲



静山



龍神



八哥

委員(黃平齋選)



俊正



芳翠



極浦



龍生



育治

會員(奥田農生選)



喜雨



梅風



千博



綠泉



智子

一般(黒田玉洲選)



瑞恵



幽篁



鈴輪



溪州



紅華

役員

- 浅良朱華
- 古瀬翠石
- 武友章知子
- 山本恵子
- 長谷川拓
- 高野和香
- 増田繁治

常任委員

- 佐藤翠龍
- 宮本瑞邦
- 大庭景雲
- 寄田龍神
- 楊八哥
- 田中壽江
- 井本敏子

委員

- 三枝龍泉
- 渡曾俊正
- 向川芳翠
- 奥島極浦
- 磯村育治
- 伊藤嘉信
- 池谷宝樹

會員

- 寺地春子
- 井畑喜雨
- 長沼梅風
- 伊神千博
- 藤田勉
- 若林智子
- 大崎三嘉
- 水中澄山

一般

- 田邊進
- 堀瑞恵
- 遠藤幽篁
- 半島鈴輪
- 宮内紅華
- 大平正子
- 須田桃苑

二月課題

「無宿問」

役員(喜多芳邑選)



白水



祥雲



静雲



青露



游光

常任委員(神原晴夫選)



紳丘



秀風



春草



平峰



惠苑

委員(武井岳峰選)



雪峰



宝樹



智香



匠



嘉信

會員(田中修文選)



喜雨



景司



寿和子



勝山



梅風

一般(梶川久美子選)



紅華



青榴



碧翠



幽篁



晶石

役員

- 南敬子
- 川崎白水
- 高野弘深
- 山崎惠子
- 浅野祥雲
- 古瀬翠石
- 杉本素月

常任委員

- 小澤博石
- 白幡雪峰
- 池谷宝樹
- 伊藤嘉信
- 安原匠
- 西岡美子
- 高杉桂華

委員

- 倉永柳葉
- 井畑喜雨
- 川端景司
- 大野勝山
- 松原香琴
- 西岡美子
- 高杉桂華

會員

- 鷹野綠泉
- 松村信夫
- 宮内紅華
- 石場溪州
- 國江碧翠
- 遠藤幽篁
- 田邊進

一般

- 牛島鈴輪
- 楊八哥
- 板屋玉芝
- 大平正子
- 三宅洋子
- 後藤英子
- 石田幹男



木印の参考品を陳列展示

## 東西印人交流会

十一月二十四日、兵庫県民会館「福」の間において本協会評議員以上の役員を対象とした「東西印人交流会」が開催された。これは昨年六月岩手県盛岡市で開催された『がんばろう東北篆刻展』を契機に交流を図り、今年四月、日本篆刻連盟総会時に本協会理事長尾崎蒼石先生が「高芙蓉」と題した講演を持たれた流れによるものである。

日本篆刻連盟からは柳濤雪先生、和中簡堂先生、堀内青巒先生、綿引滔天先生、岡野楠亭先生、扶桑印社から遠藤強先生と六人の先生が出席された。

新刊『篆刻オールスターズ』片手に井谷副理事長のユーモアあふれる来賓紹介で会場を和やかな雰囲気に変じ、柳先生、和中先生の二講演が行われた。

柳先生の演題は「二世蘭臺の描印稿と私の木印感」。蘭臺先生の作品、柳先生自刻木印紐、木印材等をもとに講演が進められた。昭和二十六



持参の参考品を前に講演する柳濤雪先生（左2）

年蘭臺先生日展出品作の描印稿では辺縁処理をも含め実押印影とほぼ変わりないとのこと。日本画の顔料である鎌倉朱を用いて描いた印稿はまさに実押印と見まがうばかりであった。また、

「作紐にはなきなたがよろしい」というのも興味深い話であった。

続いて和中先生から「篆刻の字典、工具書」についての講演が行われた。篆書とは実によっかいたな文字であり、誤字等についても共通の認識が必要ではないかとの前置きがあり、中国における字典（辞典ではない）編纂の話がされた。以下、字典編纂略史を記す。

中国において字典の編纂は一九七二年のニクソン訪中に始まる。ニクソン大統領が毛沢東・周恩来と会談した折、ニクソンから表意文字である漢字の勉強がしたいのだが、という話が出たという。それまで正確な文字を知るための物、文字そのものの字義や成り立ちを説明した字典は康熙字典しかなかった。そこで四川大学が漢語大辞典を編



字典について講演する和中簡堂先生（左3）

纂し、その副産物として漢語古文字字形表が生まれた。これを看過できない北京大学が経学の泰斗高明氏を長とし古文字類編を編纂する。この二グループは当面の目的である字典を上梓した後もそれぞれ場所を変え、研究を重ね、新しい字典を編纂していった。また、これらの動きに影響を受け、別に新たな字典が編纂されることとなる。

字典の改版、新版により、収録文字・字形にも追加消滅の異同があることを「有」「憂」を例に説明された。現在書店等で入手可能な字書の解説もされたが、概ね新しいものに依るべきであるとのことだ。

最後に和中先生は、「正確な文字を扱うことで篆刻を高め、広い見識を以て互いに切磋琢磨し、いい時代にしたい。」と警鐘を鳴らされ講演を締め括られた。

この二題の講演は、参加者に大きな刺激を与えることとなり、有意義な交流会となった。

（池田泥巽）



印材に向く各種材木の現物を展示して講演

# 「第三一回日本篆刻展」審査会開催

審査に先立ち審査基準を協議する審査員会議  
慎重に審査にあたる審査員



篆刻のみによる全国規模の唯一の公募展「第三一回日本篆刻展」の審査会が、二月二十一・二十二日の両日神戸市の兵庫県立美術館王子分館会議室で開催された。

全国各地からの作品、参与以上の役員を除く評議員、常任委員、委員、会員、公募の七七八点を対象に十六人の審査員が鑑審査に当たった。慎重かつ厳正公平な審査により梅舒適賞三点、日本篆刻展大賞一点、同準大賞九点、同優秀賞二一点、同奨励賞五五点、特選四三点、秀作七二点、会員推薦賞五二点選ばれた。

作品は、四月十五日から十九日の会期で兵庫県立美術館王子分館（原田の森ギャラリー）二階展示室にて中国芸術研究院篆刻研究院招待作家作品とともに展覧される。第二回小中学生篆刻作品展も同会場併せて開催される。

●審査委員長  
理事長 尾崎蒼石

●審査員

常任顧問 山下方亭

顧問 市川西徳

副理事長 井谷五雲 平田蘭石 真鍋井蛙

代表理事 喜多芳邑 酒居石社 小朴圃 多田龍淵

中島春緑 渡邊和琴

常務理事 梶川久美子 草田翠苑 熊本晴文 田中修文

■梅舒適賞選考委員

常任顧問・理事長・副理事長 五人

■大賞選考委員（進大賞・優秀賞）

常任顧問・顧問・理事長・副理事長・代表理事 十二人





審査会場いっばいに並べられ審査をうける出品作



審査結果を確認する審査員会議

主な受賞者

- 梅舒適賞 (評議員)
  - 大村雪陵 長谷川拓石 中林千影
- 日本篆刻展大賞 (常任委員)
  - 村松瓊玉
- 日本篆刻展準大賞 (常任委員)
  - 秋山捷華 尾川雅舟 千葉農翠
  - 山村千秋 倉野看雨 松野碧泉
  - 中山翔石 川田紅溪 松竹芳翠
- 日本篆刻展優秀賞 (常任委員)
  - 植西泰甫 青木雄山 吉田鏡水
  - 加藤翠園 金谷政治 本江恵翠
  - 浅野散閑 渡邊尚石 八谷良二
  - 山内昂波 平田征男 蓼岡慶石
  - 奥島春治 幸森倚虹 小谷敏之
  - 榑原龍山 廣田笙鶴 山崎芳園
  - 高橋忠義 澁谷蒼江 三原大



写真 真鍋井蛙



この印は我邦第二十九代内閣総理大臣犬養木堂（一八五〇〜一九三二）の用印である。先日筆者は東京でこの印を拝見する機会を得た。刻者は呉昌碩、上質の寿山石である。ただヒビ割れが印面や側面に数ヶ所見られ呉昌碩も刻すのに少々気を使ったであろう。

さて、印文は「寶蘭亭齋主人」でもちろん木堂の室号である。側款を見ると「木堂先生得定武本蘭亭。因名其齋。癸丑涂月。呉昌碩并記」とあるように、書画にも興味があり、自らも多くの書作品を残している。

印面を拡大してみると呉昌碩の刀のさばきがよく分かる。「齋」字上部、刀はかなり傾かせてある。私なればズバツと切り込むところだが呉の運刀のリズムは小さきみである。このことにより印面に微妙な変化が生じてくるのである。同じことが「亭」の最終画にも見てとれる。

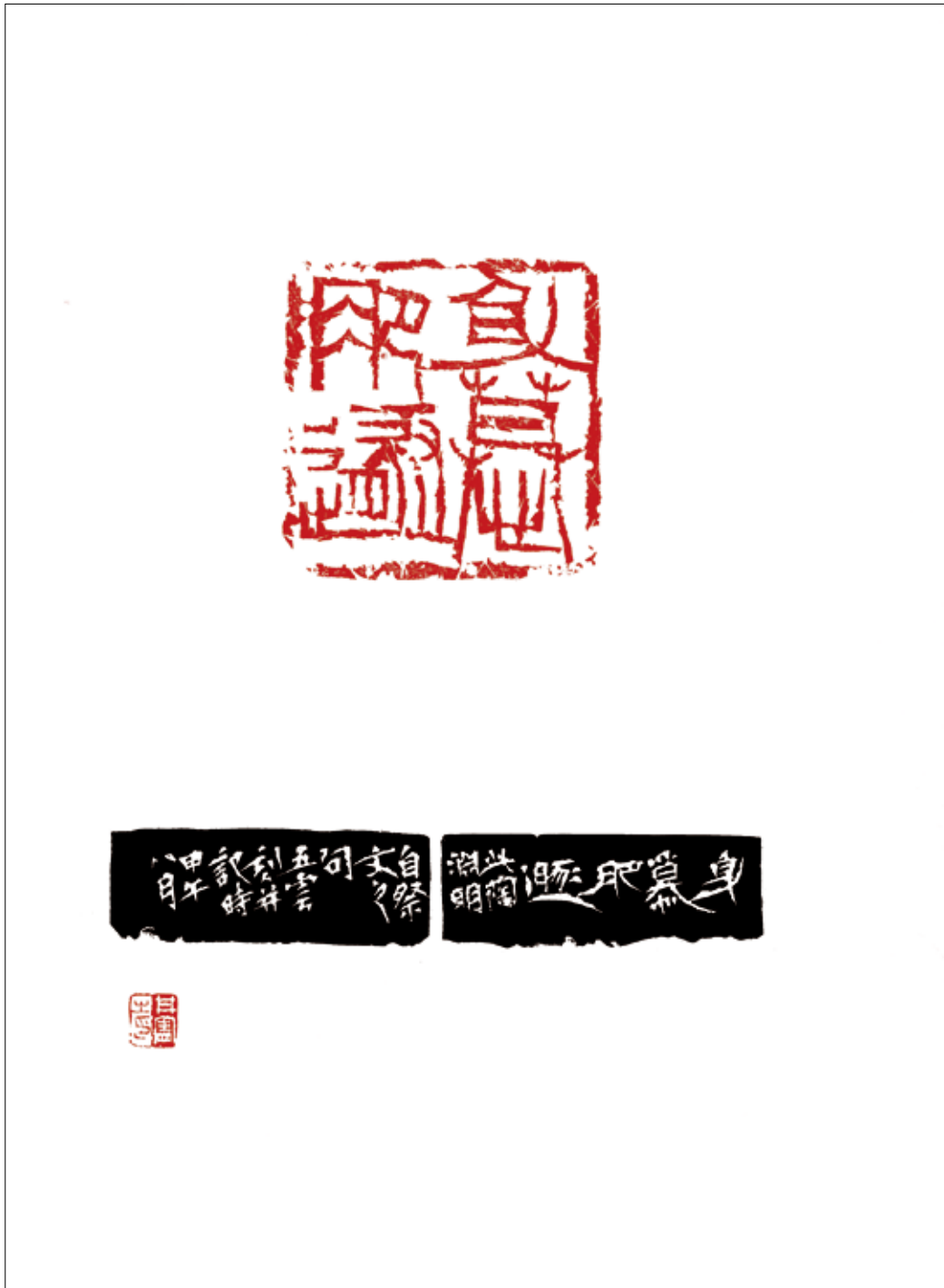


写真提供 桑家

下辺の処理も数回に分けた刀の動きが見え、印影には息の長い線として表われる。「主人」の二文字の刀は少々立っている。「主」の二ヶ所のヒビ、同じく「人」のヒビには、細心の注意を払ったであろう。ただ「寶」にも斜めに入るヒビがあり、印面左側ウカムリについては欠けてしまったというのが当たっているかもしれない。上辺は、外からも内側からも刀を入れ微妙な変化を見せる。

最後に、私は今までこの印の側款について少々不満をもっていたが今回その謎がとけた。「生」「本」「名」「丑」「昌」のあたりはヒビ割れがひどい。その為、呉昌碩の運刀リズムがくるったのかもしれない。「涂月呉昌碩」が下方にあり過ぎ安定感に欠けるように思う。ここを「癸丑老缶并記」とやれば良かったと呉昌碩が後に思ったか否か？今回実物を拝見し、いろいろと思いを馳せた。篆刻学習は、やはり実物を見ればその楽しさは倍增するのである。

最後にこの二つの印影を見て欲しい。①は一般によく見かけるものであるが②は今回鈴印したものである②の上部に微妙に残る辺縁は、本来呉昌碩はどう考えていたのであろう。実際の印面を見ると呉昌碩の意図は②に近いのではないかと考えている。



井谷五雲氏特選作品

## 改組新第一回日展の 審査にあたって 尾崎蒼石

一昨年に行われた日展篆刻の審査に不正があったとの問題で、昨年は標記の日展が開催された。その第一回展の審査に私が選ばれ、その重責を担うことになりました。一〇月八日から行われた第五科書の審査は、審査員二〇人に、外部審査員三人も加わり、厳粛に行われた事は言うまでもありません。特に今回から、漢字・かな・調和体・篆刻の全てを審査員全員で審査するという今までになかった審査方法であった事です。

我が篆刻家協会から、特選一人、入選九人の成績を上げました。特選は井谷五雲氏、入選は多田龍淵・小朴圃・真鍋井蛙・喜多芳邑・古溝幽畦・黒田玉洲各氏、また新入選には、田中修文・東尾高岳・廣田笙鶴の三氏です。入選率が約一〇パーセントの難関を突破しての入選、更に厳しい特選を獲得した井谷五雲氏に拍手を贈り、更なる活躍を希うものです。

今回日展に応募された皆さんも、第二回展に向けて更に精進されますことを願って報告とします。

# 茨城県古河市より感謝状



一月十四日に古河市「とねミドリ館」において「平成二十七年古河市新春のつどい」が開催され、席上二人の個人と一団体に表彰条例に基づく感謝状の贈呈が行われました。

古河市篆刻美術館において毎年開催される「日本篆刻家協会役員展」も恒例となり昨年は第六回となりました。開催の記念として「役員作品三点」を寄贈しました事に対し古河市より本協会に感謝状が贈られました。「新春のつどい」は市長、議長および来賓の国会議員、県議会議員の先生をはじめ各種団体代表の方々が参加され盛会でした。



## 青鏡三詠(一〇)

小林圃

### 「文明一大歩」

近頃は随分ましにはなったが、以前は中国へ旅行すると決まってトイレの話になった。開放的というが、困いのないところではさすがに…というわけである。このよつな厠は今ではよほどの山奥にでも行かなければお目にかかれない。水洗も普及して快適になると、逆に往時を懐かしむ気持ちが出てくるのも不思議ではある。

そのトイレですが中国と思わせるものに遭遇した。数年前の河南省の高速道路のサービスエリアでのこと、用を足そうと皆で並んで、ふと目の前の標語に目が釘づけになった。

「向前一小歩、文明一大歩」

ムムツ、何だこれは、トイレの標語も対句で表現するのか、しかも大きな一歩とは、あのアームストロング船長が月を歩いた時の語ではないか、もっともその時は、文明ではなく、人類にとって大きな一歩であったが…。

我国のそれとは、その簡潔さ文学性で大きな違いである。

それ以来、中国で厠を観察することが楽しみとなった。

以下集めたものを示すと、

- ・前進一小歩、文明一大歩
- ・上前一小歩、文明一大歩
- ・靠近一小歩、文明一大歩
- ・向前一步、滴水不漏
- ・貼近文明、靠近方便

こう並べてみると、どうもひとつのパターンがあるようである。「向前一步」とは、一歩前へ踏み出せの意で、こんな素晴らしい言葉を厠に閉じ込めておくのは勿体ない。が、靠近方便はちと生々しい、辞書に当たって調べてみられよ。

聞いた話だが、中国の小学一年生に最初に教える言葉が、「来匆匆、去冲冲」だそう。発音にリズム感があるので覚えやすいからだと言いが、初めての学校生活でおもしろいすると大変だから、トイレには早く行って、早く帰ってきなさい、は大事なことではある。



向前一步

二〇一一年刻  
于台湾車中

予告

# 第八回 中央研究会

講演

『陳介棋の研究』

(尾崎蒼石理事長)

『私の印の見方』呉昌碩』

(山下方亭常任顧問)

『私の印の見方』会員作品』

(真鍋井蛙副理事長)

とき

八月二二日(土)～二四日(月)

ところ

シーサイドホテル舞子ピラ神戸

多数の参加お待ちします。

詳細は印社代表に

お問い合わせ下さい。

# 各印社活動 トピックス

## 第一七回齊平展

十月三日～五日大阪くらしの今昔館で開催した。本年は呉昌碩生誕一七〇年に因んで、缶翁とその交友のあった日本人富岡鉄斎、山田寒山・正平、水野疎梅、桑名鉄城、楠瀬日年などの作品を併催で展観した。テーマ展は



『月』字印で、各教室個性豊かな作品を発表した。また連日、列品解説やギャラリートークを行い好評であった。(東尾高岳)



## 第二十九回畦石舎作品展

十月四・五日、京都岡崎日図デザイン博物館において第二十九



回畦石舎作品展を行いました。会期が実質一日半であるうえ、台風の接近で天候が不安定な中、三百名近い方々が足を運んで下さいました。紙

面をお借りして一言御礼申し上げます。今年が二十九回展ということで「二」と「九」が入った印文を刻す企画陳列をはじめ、会員の個性豊かな力作が並びました。また三月に訪中した際の写真も合わせて展示し、会場に来ていただいた方々と訪中の話を通じてより深く交流することができました。来年の記念すべき三十回展に向けてこの言葉を胸に会員一同さらなる高みを目指しますので来年度も是非御高覧いただきますよう、よろしくお願い致します。馬鹿不孤必有鄰(北田成磊)



## デザインとして見る篆刻の展開 不華篆会習作展XXII ―酒をデザインして生活の中に書篆刻―



不華篆会習作展XXIIを平成二十六年十一月一日から三日までの三日間、伊丹市立工芸センター展示室Bで開催した。デザインとして見る篆刻の展開をタイトルとし、今年のは「酒」字をデザインして生活の中に書・篆刻をサブテーマに、会員二十一人がそれぞれオーソドックスな篆刻作品と工芸的な手法を用いた作品を出品した。オーソドックスな篆刻作品のほか、陶芸、木工、彫金・金属・鉄筋加工、紐・竹・皮・紙細工、刺繍等の工芸的作品だけでなく、和装本、折本の印譜も出品されバラエティに富んだ展示になった。毎年工芸的作品には苦心しているが、来

場された方々から「毎年、楽しみにしています」との言葉に励まされ続けている。恒例となっている篆刻一日体験講習会を最終日に開催、好評を得ている。巡回展として同月二十六日から十二月四日まで、丹波市の兵庫県立丹波の森公苑展示ギャラリーで開催した。(S)

## 随風會書法篆刻展IN上海

一年間の準備を経て上海嘉定で『日本随風會書法篆刻展IN上海』が、二〇一四年十一月二日から十五日までの間開催されたが好評のことので二十四日まで会期を延長しての開催となった。韓天衡美術館のスケールは大阪市立美術館に匹敵し、広く重厚であり会場に合わせて二×八の横作品を新たに企画したが、そのこの意味が



その場に立って初めて理解できたと思う。例えば原田の森を一印社で使用するようなものである。

開幕式には上海・嘉定の名士多数にご臨席頂き感動した。韓天衡先生はそこご挨拶の中で韓天衡美術館の開館一周年にして初の海外からの展覧会が開催された。昨今の情勢下日本の随風會が盛大な展覧会を行なうことは中日芸術家の間の友情を十分に表すものである。山下先生とのお付き合いは今日まで四十二年間の永きに及ぶ、人は必ず老いるが芸術は常緑であると穏やかに話された。韓先生の思いが表れているご挨拶に会場の上海の皆様、訪中団員は深く感銘を受けた。開幕式を終え久しぶりに書会も行った。

翌日、団は桐郷市の青桐印社を訪問し沈慧興社長より歓迎を受けた。又桐郷市呉利民党書記より歓迎宴も初めての事であった。その後新烏鎮を観光を楽しみ、団員二十名は杭州空港より帰国した。(山下方亭)

### 第十三回 関中篆刻・篆書展



隔年に行ってきた本展は、十三回を数え、論語をテーマとし、側款の拓とともに創作した課題のほか六十点の作品を展示しました。

特別陳列として石鼓の拓本・呉昌碩の軸二幅が飾られ、来場者の関心を集めていました。また、会場では、体験コーナーを設け、会員が希望された方とともに印を刻しました。落款を作られた方には、「よい記念になった。書に押しませ。」と喜んでいただきました。会期中の来場者は、五百五十一名と多くの方々にご観覧いただき、会員の励みになりました。

今後、この刃物の町関中から、印刀を使い作品を作る篆刻が、こうした展覧会を開くことにより、関心を持っていただけ、身近に感じていただけることを願っております。  
会期 十一月二十日～十一月二十三日  
会場 関市文化会館 出品者 四十六名  
(浅野春泉)

### 伍葉展

井後雅堂・石留之然・稲垣華扇・北田成磊・東尾高岳

一月二十三日(金)～二十五(日)みなせ画廊にて開催。  
昨年の訪中で青田を訪れたことに端を発し、次世代の若手作家となるべくグループ展をや



ろう、と結了した。

五人がどの様な作品を作っているのか全く判らぬまま搬入の日を迎え、さて人は入るのだろうかとあれこれ心配になったが、結果的に杞憂であったと胸をなで下ろしている。

また、思いがけないことに関東の先生方にも我々の作品を観て頂く機会に恵まれました。対作家として作品の感想や制作について意見を交わす、という貴重な体験は大いに刺激になった。きっと次の作品にも活かされることと思う。

孤独な作品づくりの中で落ち込むこともあるが、それを越え狂気となって出たものを発表していきたいと今から楽しみである。(石留之然)



### 第十九回 好日会書・篆刻展

二月六日から十日まで中部電力岐阜ビルパレットルームで梅舒適先生の山水画のお軸を飾らせて戴き県内外会員十三人で開催しました。展示内容はテーマ「余白をみつめる」をそれぞれが半紙1/2に自由に表現した作品。自由作品二十五点は毛筆と篆刻を合わせた構成としました。小印作は協会十五年度の例月課題の中から五類以上側款拓を付し個性を感じる装丁の作品。臨書は1/2半折に中国書家の作品を各自が選定して技の向上を目指し取り組みました。悪天の予報がそれ前半は好天に恵まれ大勢のお客様から暖かいお言葉貴重なお指導を賜りました。この幸せを糧として次回に向けて日々研鑽して参ります。  
(田中緑翠)



# 展覧会案内

▼稲香印社(梶田稲州)  
 第六回稲香印社展 篆刻と書と陶  
 会期 六月二三日～二八日  
 会場 名古屋市民ギャラリー栄

▼島根篆刻会(足立瑞泉)  
 第三六回島根篆刻展  
 会期 七月一七日～一九日  
 会場 松江市中国電力ふれあいホール

▼井谷五雲・小林圃・真鍋井蛙  
 第三四回六轡会篆刻作品展  
 会期 八月二六日～三〇日  
 会場 京都文化博物館

▼齊平篆会(真鍋井蛙)  
 第一八回齊平展  
 会期 一〇月二日～四日  
 会場 大阪くらしの今昔館  
 特別陳列：河西笛洲・近藤尺天

▼畦石舎(小林圃)  
 篆刻・書・画  
 第三〇回畦石舎作品展  
 会期 一〇月三日～五日  
 会場 京都市日図デザイン

▼随風會(山下方亭)  
 第三〇回記念随風会篆刻展  
 ー青桐印社との交流展ー  
 会期 一〇月一三日～一八日  
 会場 京都市立美術館

▼不華篆会(酒屋石荘)  
 デザインとして見る篆刻の展開  
 不華篆会習作展XXIII  
 会期 一〇月三十一日～十一月一日  
 会場 伊丹市立工芸センター  
 一二月三日～二日に兵庫県立丹波の森公苑で巡回展

▼蒼文篆会(尾崎蒼石)  
 第一六回蒼文篆会云展  
 会期 十一月二七日～二九日  
 会場 大阪美術倶楽部  
 特別陳列：中国山東印社代表作家作品

## 報告

▼清蓮社(池田泥蓑)  
 東花会館 書・画・篆刻教室作品展  
 会期 一二月一七日～二二日  
 会場 川西市立ギャラリーかわにし

## 協会行事

常務理事会  
 二月二五日(土)  
 大阪市 錦城閣

東西印人交流会・講演会  
 二月二四日(祝)  
 兵庫県民会館

平成二七年度  
 理事会・総会・新年会  
 二月二日(月・祝)  
 大阪ベイタワーホテル

第三二回日本篆刻展 出品締め切り  
 一月末

第三二回日本篆刻展 審査会  
 二月二日(土)～三日(日)  
 兵庫県立美術館王子分館

## 予定

第三二回日本篆刻展  
 四月五日(水)～九日(日)  
 兵庫県立美術館王子分館 原田の森ギャラリー

第三二回日本篆刻展 授賞式  
 四月八日(土)  
 ANAクラウンプラザホテル神戸

中国芸術研究院中国篆刻芸術院  
 訪日代表団受け入れ  
 四月五日(水)～九日(日)

第七回日本篆刻家協会役員展  
 四月二五日(土)～六月二五日(木)  
 古河市立篆刻美術館

第八回中央研究会  
 八月三日(土)～四日(月)  
 シーサイドホテル舞子ビラ

## 海外交流

「日中篆刻家交流展」  
 一月一八日(水)～二三日(月)予定  
 中国(広西)篆刻芸術館(広西壮族自治区南寧市)

常務理事会  
 二月二四日(土)  
 大阪市 錦城閣

## 訃報

日本篆刻家協会副理事長で越思篆会を主宰する大村高陵先生が、一昨年十一月胃がんのため入院治療を続けておられました。昨年四月十日逝去されました。享年七十九歳。読売書法会理事を務められました。(梶川久美子)

日本篆刻家協会名誉理事で遠邇篆会創設・前代表の駒形蒼岳先生が、腹部疾患により八年前から闘病生活を続けておられました。六月二十六日午後容体が急変し逝去されました。享年八十二歳。読売書法会幹事、日本書芸院評議員を務められました。(伊藤雅彦)

お気づきのこと、ご意見など  
 事務所までお寄せください。  
 MAIL info@n-tenkokujp  
 FAX 072-760-3853

## 編集後記

▽桂米朝さんがあちらに逝されました。「落語家には品、愛嬌、そして上等な藝」と言われたそうです。品と愛嬌は人間性であり、皆さんが求めるところでしょう。上等とは、小手先のものではなく確実な基礎の上にあるゆるぎないもの。何事に於いても通じることです。私たち篆刻を志す者にとって基礎勉強は何時になっても必要なことと思います。篆刻の基礎は「摹刻」今一度振り返ってみてはいかがでしょうか？

▽真鍋副理事長の石印紹介の中に側款についてふれられていますが、当協会会員の方々にも、かなり側款は浸透してきましました。そこで印文、干支、号だけでなく今一歩進めて、品の有る上等な側款の刻し方等の記事を期待したいものです。

▽「月いつく空はかすみのひかり哉」歌人、肖柏「霞」とは、水蒸気で大気が曇る現象ですが、今や霞PM2.5、黄砂になってしまったようですね。古来中国から沢山のいいものはいって来ましたが、これだけは戴けませんね。また、霞や朧って言葉が使える時代がくるのでしょうか？「日中友好」に期待したいですね(谷庸)

編集・谷庸報部  
 酒屋石荘 榎原晴夫 木村容庸  
 内田真弓 戸出九鷹